



有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: info@chigasakieigo.com

オバマ・イベント 報告

第56回アメリカ大統領就任式は連邦議会議事堂前で1月20日(火)正午(日本時間21日午前2時)から行われ、就任演説の内容はABC news から即日 Net 配信されました。このオバマ大統領就任演説を学習に利用しようという新潟校の提案を受け、多くの協力校が、それぞれに工夫を凝らしてオバマ・イベントに取り組みました。またオバマ就任演説を検討した結果、使用単語の98%は茅ヶ崎方式国際英語基本4000語に網羅されていることが検証されました。茅ヶ崎方式英語会のホームページでもご報告しておりますが、ホームページをまだご覧になっていない方のために、オバマ・イベントのいくつかをここにご紹介いたします。

オバマナイト報告

新潟校 渡辺 聖

こんにちは。新潟校 (<http://www.speakup.jp/>) の渡辺です。激動の一か月が終わりました。当校で行った「オバマナイト」のおかげです。事の始まりは1月19日当校のホームページで「オバマ新大統領の就任演説を将来授業に使いたいです。」と書いた事にあります。翌々日の21日その一文を御覧になった朝日新聞の記者の方から「どうやって使うんですか。」と電話を頂きました。正直焦りました。その時点では何も具体的に考えていなかったからです。でもそこは私もこの世界で20年、仕事をさせて頂いています。記者の方との電話で名前は「オバマナイト」日時は2月3日に決まりました。その会話の翌日1月22日、朝日新聞にドーンと告知記事が出たのを確認した時は友人に電話しまくりました。ところがその後の展開が私の予想を遥かに超えた物になりました。

まず新聞記事がでた1月22日、NHKからの取材依頼を皮切りに来るわ来るわテレビ局や新聞、雑誌の取材依頼が全部で8社。2月3日のオバマナイトは一般の参加者が14人で、マスコミ関係者が14人いらっしゃっており、皆さんギュウギュウ詰めでどなたか酸欠で倒れたらどうしようとハラハラしながら授業をしました。結局参加者も80人になり4週に分けて行わせて頂きました。

内容は茅ヶ崎英語でやっている物を自分なりにアレンジしました。オバマ大統領の演説の最初の5分間を使いました。そこで出て来た難しい単語を30個ピックアップし聴き取って頂きました。その後はC-3で使っているパズルを作り単語の確認。Dictationに役立てました。最後は短いフレーズを覚えて頂きカラオケのように画面でのオバマ大統領のスピーチを背景にマイクを廻しながら順に発表して頂きました。

参加者の感想は一律に「難しかったけど楽しかった」と言う物でした。私としては毎週行っている茅ヶ崎の授業がこんな風に役立つ事はとても嬉しいです。一回目の成功を受けて全国の茅ヶ崎の協力校に新潟の事例を発信しました。それぞれの協力校でアレンジしていただければいいなあと思います。

スピーチの魅力：オバマ・アワー

豊田校 畑 裕子

オバマ アメリカ新大統領の就任演説を大スクリーンで見て生の英語を味わおう、という趣旨で、「スピーチの魅力：オバマ・アワー」を開催いたしました。地元、中日新聞のお知らせ欄で一般の方も募り、2月13日10～11a.m.に11人の参加で行いました（実際には12：30p.m.まで話が弾みました）。豊田市青少年センターの大スクリーンをお借りして、最初に、ビデオ映像を英語音声・日本語字幕で見ました。次に、グループセッションで、各自が気づいたこと、勉強して知っていることをシェアしていただきました。2月9日のNHK『英語でしゃべらナイト』で、このスピーチを取り上げていたため、専門家の分析を鵜呑みにして、その点だけに注意を払っている方もみえました。こちらから少し説明を加えた後、演説の英語音声のみを聴き、新たに気づいたり、発見したりしたことを発表し合いました。気づきを主にしたセッションはどんな英語レベルの方にも楽しめるひとときだったようです。

オバマ大統領就任演説学習会

浜松校 松島 しげみ

約20名の方が参加してくださいました。前半は私が担当し、オバマスピーチの最初のさわりの部分を教材として単語のクイックリスポンス、ディクテーション、解説をしました。その後、DVDを日本語字幕つき、英語字幕つき、字幕なしの順に聞き、臨場感を感じてもらいました。後半はオハイオ出身のステファニーさんにアメリカ人として、オバマ演説の特徴、彼女のお気に入りのパート、選挙のときの状況等お話していただきました。準備等大変でしたが思い切ってやってよかったと思います。

「オバマ大統領の就任演説で英語を学ぶ講座」を終えて…

三輪緑山校 新ヶ江 啓子

遅まきながら私も上記のタイトルで講座を開きました。3月22日（日）1：30～4：00、地域のコミュニティーセンターで行いました。無料ですということで住宅内の回覧板で案内をして頂けたお陰様で36名の参加者がありました。当日はオバマさんのスピーチにあった“…amidst gathering clouds and raging storms”を連想させるような悪天候でしたが、予想以上に来て頂き感激しました。

講座の進行の概要は次のとおりです。

- (1) 先ずスピーチのスクリプト（7枚）を配布しました。行間を少し多めにとって難しい語彙はその下に日本語の意味を書いてあります。ところどころ（ ）を設け key words としてアルファベット順に並べたものも用意し皆さんと発音をして確認しました。
- (2) オバマ氏のスピーチの特徴、クリントン氏を打倒した要因、オバマ氏の多様なバックグラウンドなどを説明。
- (3) CDでセンテンスごとに彼の肉声を聞き、（ ）に入れる単語を言ってもらいます。…これは適度の刺激とゲーム感覚があったようで飽きずに参加できたようです。
- (4) 逐語訳的に日本語で意味を添え、文法的な説明も可能な限り行いました。
- (5) 大きな拍手のあった箇所は、皆さんと一緒に読み味わいました。
- (6) 最後に感想文を書いて頂きました。

歴史に残る大統領の演説を全文やり遂げて最後は達成感とお互いの集中力に拍手をしあいお開きとなりました。

参加者の中には中学生が4人いてそれは熱心に参加し感想文では「ルーズベルトやワシントンやケネディを調べたい」「他の演説も聞きたい」「興味が湧き面白かった」等という言葉に感動しました。また大人の方々は「興味があって全文の英語と訳の載った新聞はとっているのだけれど一人では結局しないのでこの講座が良い機会になった」と書いて下さっています。私もこの機会に非常に緻密に読み解き、オバマ氏関連の書籍にも目を通しすっかり彼のファンになってしまいました。この世界的な危機や様々な難局を乗り越えるのは容易ではありませんが、本当に頑張りたいと思います。

地域に根ざした活動をしたいと思っていますので、このイベントをして本当に良かったです。



《西宮北口昭和町校》 兵庫県西宮市

代表 天満 嗣雄

茅ヶ崎方式と TOEIC のクラスを始めて丸 2 年、「Chigasakimates に原稿を」との依頼を頂きました。常にクラスの進め方を試行錯誤している青二才が書いて良いものかとも思ったものの、折角のお話なので書いてみることにします。

■TOEIC に効く茅ヶ崎方式

西宮北口昭和町校（プロセス英語会）は茅ヶ崎方式と TOEIC のクラスを提供しています。（最近、発音クラスも開始。 [オバマナイト関西版](#) に参加してくれた方が 2 人お申込みです。）

茅ヶ崎方式の素材はニュース英語。事件・事故や政治・外交・安全保障など、およそ TOEIC には出題されない話題が殆どです。なのに茅ヶ崎方式クラスを受けている人の TOEIC スコアが結構良い。

（昨年秋の I P テストでも C1 の生徒さんが 775 点を取得。）

聴く力がつくんでしょ。私のクラスでは、L C T を聞く際のメモは一切禁止です。3 回聞いた後に Comprehension Questions を 10 問ほど出します。会員さんは何を聞かれるか分からないから、出来るだけたくさん記憶にとどめようと頑張ります。そりゃ、先に何が聞かれるか分かっている量も少ない TOEIC のリスニングなんて、楽ですよ。

■茅ヶ崎方式と発音

茅ヶ崎方式クラスで私が特に力を入れているのは発音です。語彙力と文法力は教本で充分ですが、音を聞いて単語を認識する過程が不十分だとリスニングが非常に非効率だからです。

自分の出せる音は楽に聴ける。だから、入口の障害を少しでも減らすためにネイティブの音をしっかりと真似て言う練習をしてもらいます。特に息が途切れずにつながって話される点とあいまい母音の発音をかなり厳しくチェック。（前の単語と重なった approve とか acknowledge などの最初の a を聞き取れずに意味を見失う人がどれだけ多いか！）

この視点で見ると L C T の読み方には少し不満。全体的にスピードが遅いことに加えて、単語と単語の間でやや不自然に区切っていると目立ちますから。

とは言ってもやはりネイティブはネイティブ。真似をするうちに聞き易くなるんですね。最初から TOEIC 925 点を持っていた会員さん、2 週間のクラスだけで「CNN がめっちゃ聞き易くなりました」とはご本人の弁。

さあ、3 年目。さらに効果的で結果の出るクラスを目指して頑張ろう、という決意とともに筆を置きたいと思います。

茅ヶ崎方式英語会から原稿依頼をいただいたのは約2週間前のことです。英語会には日頃からお世話になっておりますので、二つ返事で引き受けさせていただきました。ところが、いざ書こうとしてみると、書くことが思い浮かばないのです。そのまま時間が過ぎて、あっという間に締め切り当日になってしまい、今、やっと書き出したところです。

よく知っている生徒さんに向けた文章であれば、いくらでも書くことができます。「〇〇さんは、句と節の違いを意識して訳してください」「〇〇さんは、that や it など語尾の t に不要な母音を入れなくてください」といった具合にです。また、昨年暮にベレ出版から刊行していただいた『<具体的・効率的>英語学習最強プログラム』のような、一般の英語学習者に向けた文章であっても、読者を脳裏に思い浮かべることができれば、書くのは難しいことはありません。

ところが、Chigasakimatesの読者 - 基本的には他の協力校の主宰者や生徒さん - に向けて書くとすると、読者の姿が想像つかないため、書くことが思い浮かばないのです。そこで、開き直って、自分の関心を優先させて書かせていただくことにします。

上記のとおり、昨年、本を刊行させていただきました。いろいろな動機がありましたが、大きな動機は、当然といえば当然ですが学習者の役に立ちたいというものです。

仕事柄、生徒さんから様々な質問を受けます。英語についての質問が大半ですが、学習法についての質問も多いのです。そして質問に答えると、「聞いて良かった！」と、予想以上に喜んでもらえることも多いのです。こちらとしては当たり前のことを答えただけという意識があるので、意外でした。初めのうちは、社交辞令として大きさに喜んでくれている部分もあるのだろうと思っていましたが、似たような経験を繰り返すうちに、本当に喜ばれているらしいと感じるようになってきました。そこで、個別に答えるだけでなく学習法の本を出すことによって、他の多くの学習者の役に立てるのではないかと思い始めたのでした。

考えてみれば（というより考えるまでもなく）、英語の知識に関しては、講師にとっては当たり前であっても、生徒さんにとっては当たり前ではないことが沢山あります。英検やTOEICを簡単に解くのは講師にとっては当たり前でも、生徒さんにとっては当たり前ではありません。そのギャップを、生徒さんが埋めていくのを手伝うのが、講師の役目だと思います。

だとすれば、学習法の知識に関しても、講師にとっては当たり前でも、生徒さんにとっては当たり前でないことが沢山あるのではないかと思います。そのギャップを埋める手伝いをしたいというのが、本を書いた大きな動機です。

本の内容は、講師である私にとっては当たり前のことですから、協力校の主催者の方々にとっても、当たり前のことが多いと思われます。もっと優れた方法を実践されている方も多くいらっしゃるでしょう。しかし学習者にとっては、それなりに上級者の方であっても、初めて気づくことも多いと思います。学習のヒントにしていれば幸いです。



あとがき：お花見の季節となりました。ここ千代田区九段では千鳥ヶ淵の桜が咲き始めました。